

りゅうこうよこはまけん

よこはまけんかえうた

#49 流行横浜拳

横浜拳替うた

作者：出子散人（でこ・さんじん 生没年不詳）

刊行：安政7年？（1860）



[K79. 1/3]



[K79. 1/7]



解題

■ 内容

『横浜拳替うた』（表記は「横はまけむ替うた」）は『流行横浜拳』の続編。横浜拳とは野球拳の一種で、ジャンケンの勝負をして負けた者が着ているものを一枚脱いでいくという遊びで、外国人にも非常に評判だった。ジャンケンの際に歌に合わせての振り付けがある。その歌詞と振り付け、遊ぶ様子の絵が『流行横浜拳』と『横浜拳替うた』に掲載されている。

前後して『ヨコ羽万けん流こうけん』『ヨコ羽万ケン』（いずれも一芸斎芳富絵）が出されている（当館未所蔵）。

■ 作者

作者は出子散人。三田村鳶魚は仮名垣魯文と同一人物としている（『瓦版のはやり唄』）。また当館所蔵の『流行横浜拳』は欠落があり確認できないが、他館所蔵本では仮名垣魯文、岳亭主人の記名も見られ、尾末にある表記の日本坊も含めた四者を同一人物とする説もある（『横浜の本と文化』）。しかし戯作者二代目岳亭の戯号が「頼山人（でこさんじん）」であり「出子散人」と記すこともあったとして、仮名垣魯文とは別人とする説もある（高木元「二代目岳亭の偉業」）。

仮名垣魯文（1829-1894）は戯作者、新聞記者。多数の号・筆名等を持つ。本名は野崎文蔵。

二代目岳亭は本名岡部助左衛門。幕末の戯作者・浮世絵師の初代岳亭の門人。師の画名を継ぎ、二代目岳亭春信、岳亭定岡と称した。下谷広小路に住んでいたが、明治初期に横浜に移住したとされる。

『流行横浜拳』の画人は歌川芳盛（1830-1884）。歌川国芳の門人で号は一光斎。三木光斎の名で文人画も手掛けた。

本文を読む

<版本>

『流行横浜拳』出子散人 [K79. 1/3]

『横浜拳替うた』出子散人 1860 [K79. 1/7]

<原歌・替歌>

横浜拳の原歌と替歌は以下の資料に所収されている。

「横浜拳」（『横濱社会辞彙』横濱通信社 1917）[K03. 1/1]

「横浜拳」（『横浜近代史辞典』湘南堂書店 1986）[K03. 1/1A]

※『横濱社会辞彙』の復刻

<デジタル>

国文学研究資料館 近代画像データベース「流行横浜拳」

参考文献

三田村鳶魚「ちょんきな替唄忠臣蔵」（『瓦版のはやり唄』三田村鳶魚著 春陽堂 1926）[768. 5/6]

『仮名垣魯文』興津要 有隣堂 1993 [K28. 1/395] [910. 26BB/1342]

『横浜の本と文化』横浜市中央図書館 1994 [K02. 1/36]

『ハマことば』伊川公司 神奈川新聞社 2000 [K81. 1/19] [818. 37NN/2]

高木元「二代目岳亭の偉業」（『千葉大学人文社会科学研究所』23 千葉大学大学院人文社会科学研究所 2011）

※当館未所蔵 千葉大学学術成果ポータルで閲覧可能